

廃食油の回収をしています

町では、環境への負荷を下げるため町内4施設で家庭用廃食油の回収を行っています。集めた廃食油はバイオディーゼル燃料としてリサイクルされます。

●回収可能な油

家庭から出たてんぷら油などの植物油
※ラードなどの動物油、エンジンオイルなどの鉱物油は回収できません。

●回収場所

役場、町人権啓発福祉センター、町生涯学習センター、大津地区公民館分館



役場西側入口にある廃油回収スポット▶

●回収方法

天かすなどのごみを除きペットボトルに入れて出してください。

●令和5年度の廃食油回収量

みなさんのご協力により1,320ℓの油を回収できました。これは二酸化炭素の量で2,383kgの削減となります。地球温暖化対策にもなりますので、引き続きご協力をお願いします。

環境美化の日は6月2日(日)

年2回、6月と10月の第1日曜日に、町内全域で環境美化活動を行っています。今年は、1回目を6月2日(日)に行います。地域の環境美化活動にご協力をお願いします。

●実施の注意点

- ・家庭から出るごみは、絶対に出せません。
- ・集めたごみは、事前に環境保全課から行政区囑託員等を通じて配布するボランティア袋に入れてください。
- ・当日集めたごみは、収集しやすいように必ずボランティア袋に入れて、各地区で指定した集積場所へ出してください。
- ・竹は収集しませんので、直接処分場(緑のリサイクルセンター)☎096(292)1717への搬入をお願いします。



輝く人権



人権擁護委員
ほしひさ 久良さん

●問い合わせ
大津町役場人権推進課人権推進係
☎096(293)0863

今回は、人権擁護委員として活躍されている樋口久良さんにお話を聞きました。

Q 人権擁護委員の活動を教えてください。

活動には3つの柱があります。
1つめ「相談」では、面談、電話、インターネット、SNSで相談に応じています。阿蘇大津支局に届いた「子どもの人権SOSミニレター」には、一人一人の気持ちに寄り添って返事を書いていきます。
2つめ「救済」では、「人権を侵害された」という被害者からの申請を受け、法務局職員と協力して調査に当たります。調査の結果、救済措置を行う場合もあります。
3つめ「啓発」では、人権の花運動、全国中学生人権作文コンテスト、人権教育・講演、啓発イベントなどでお互いの人権を尊重し合うことの大切さを伝えています。

Q 所属されている男女共同参画委員会では昨年度、どんな啓発活動をされましたか。

まず、地域では10市町村(阿蘇郡市、合志市、菊陽町、大津町)の各つどいやフェスティバルで人権擁護委員の役割や人権の大切さを広める活動を行いました。啓発グッズを配布しています。学校では翔陽高校の3年生を対象にハラメントについてDVD視聴後、講演をしました。また企業へは、性の多様性をテーマに「性指向・性自認」について考える研修をしました。どの活動も自分の学びがありました。

Q 今後、力を入れたいことは何ですか。

共生社会の実現に向けた取り組みとしてLGBTQ+の理解・啓発や、今後も増加が予想される外国人と人権について企業研修の推進に力をいれたいと考えています。
また、私たち人権擁護委員も社会の動きや人権意識についての研修に努めていきます。
人権とは、誰もが自由に幸せに生活する権利であり、「誰か」のことでない、私達自身にもあります。部落差別をはじめ、あらゆる差別に対する取り組みをすすめること、人権擁護委員の存在と役割を知っていただこうと思います。



企業で人権学習会を行う樋口委員

おおづのしごと

株式会社ワーク

快適に、安全に海に潜るためのダイビングスーツをつくっています。



未経験からのスタートの人も多数います
スーツづくりの一場面です

快適に、安全に海に潜るためには、ダイビングスーツは欠かせないものです。
私たちの製品は、レジャーダイビングを楽しむため、そして海上保安庁や水族館などのプロの現場でも活用していただいています。
最新のテクノロジーを採用しながら、従業員一人一人が「クラフツマンシップ」を持ち、ものづくりのプロとして、いきいきと働いています。
また、さまざまな工程を経て一着のダイビングスーツをつくっていくため、従業員同士のチームワークも大切にしています。



代表取締役会長
うえむら 上村 ケサヨさん

【企業概要】

- 所在地 熊本県菊池郡大津町大林802-6
- 業種 製造業
- 従業員数 47人
- 事業内容 ダイビング用スーツの製造
- 連絡先 ☎096(294)0770

ホームページはこちら▶

くらべてみよう! クロッシングカルチャーズ vol.19

CROSSING CULTURES

オースティンが日本の文化とアメリカの文化を比較して紹介する「CROSSING CULTURES」第19回となる今回は「それぞれの国へのイメージの違い」についてです。

人によって国へのイメージは変わってきますよね

違う国やその国の文化を理解することはとても難しいことです。日本に住んでから、ニュースで見たアメリカの事情について質問されることが多くありました。海外を旅行したり、日本で生活する中で、私が知っているアメリカと人々がイメージしているアメリカが大きく異なることが分かってきました。アメリカのニュースや激しい政治情勢を見て、「これがアメリカという国なんだ」と思う人が多いのではないかと思います。もう一つ難しいことは、アメリカは国の面積がとても広いので、同じ国でも地域によって文化の違いがあることです。そのため「これがアメリカという国です」と簡単に説明するのはとても難しいです。アメリカで争いが起こっていたり、スポーツなどにとても熱中している様子をニュースで見るとは多いと思いますが、これは未来の世代のために国がより良くなることを願っているからだと思えます。若者の力を

信じることは重要であり、忘れてはいけないことです。日本もその他の国も同じで、実際にその地を訪れてみるとその国についてよく理解することはできません。そのため、外国に行ったことがない人はぜひ海外旅行やホームステイをしてほしいと思います。きっと人生を変えるような経験ができ、自分自身や母国、そして違う国の文化や生活をよく理解できるようになるはずです!



ヘイスティングス市(ネブラスカ州)の皆さんと